

いわいの大地

令和8年

4月

No.59

東山町の松川中通地区は、山あいに小さな田んぼが連なる中山間地域です。高齢化や担い手不足が進む中、農地の維持管理が課題となっています。こうした状況を受け、同地区では中山間地域等直接支払制度を活用し、地域ぐるみで農地を守る「松川中通中山間集落協定」（構成人員28名、面積6・8ha）を締結しました。

代表の石川さんは、仲間とともに日々、田んぼの見守りや草刈り、水路の整備などに汗を流し、「田んぼを守ることは、地域の暮らしを守ることもつながる」と話します。

農地が荒廃すると、鳥獣被害の拡大や景観の悪化、水源涵養機能の低下など、地域全体の生活環境

にも影響が及びます。そのため、仲間と協力し合い、世代を超えて農地を守り継いでいくことの大切さを訴えています。

令和7年度からは、地元の松川1区自治会と連携し、長根用水路の水源周辺にある紅葉ヶ滝公園で草刈りや清掃活動を実施するなど、環境整備を通じた地域との交流にも取り組んでいます。

石川さんは、「制度を有効に活用しながら、仲間や地域と協力し、将来にわたって活動を続けられる体制を整えていきたい」と力強く語ります。

地域の農地を守る取り組みは、着実に広がりを見せています。

農地利用最適化推進委員
小野 修司



中山間地域等直接支払制度
松川中通中山間集落協定
代表 石川 淳さん

仲間と守る中山間地域の田んぼ



紅葉ヶ滝公園での清掃活動



農地賃借料情報

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。

令和7年1月から同年12月までに締結（公告）された賃借料における賃借料水準（10アール当たり）は、以下のとおりとなっております。

① 田（水稻）の部（10aあたり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	8,723円	16,717円	3,067円	694
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	5,987円	10,817円	2,103円	1,196

② 畑の部（10aあたり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	5,391円	9,955円	3,442円	16
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,409円	5,000円	1,600円	50

- 今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額（平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの）な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。
- 実際の農地の賃借には、賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。
- 実際の農地の賃借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状および隣接する道水路などの状況を考慮して、両者で協議の上決定してください。

備考

農業者年金のお問い合わせは
農業委員会またはお近くのJA窓口へ
電話 43-3606（一関市農業委員会）



農地の貸し借りは手続きが必要です。
詳しくは農業委員会にご相談ください。



意見書に対する、市の回答

11月4日に市長へ提出した意見書に対して、市から回答がありました。
詳しい回答内容は農業委員会のHPで公表しています。



全国農業新聞

購読料

令和8年4月から

月額 900円

全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会、本庁農政推進課、または各支所産業建設課まで

「いわいの大地」編集委員
編集委員長 小山 範輝（川崎）
副委員長 遠藤 真一（千厩）
編集委員 阿部 久美子（一関）
及川 治雄（花泉）
及川 務（大東）
小野 修司（東山）
鈴木 耕多（室根）
後藤 修（藤沢）

今年の冬は、日本海側を中心に大雪のニュースを何度も耳にしました。ここ一関市は大雪こそなかったものの、寒さは例年以上に厳しく感じられました。寒い冬は農作物が豊かに実るとも言われています。今年のお米の作柄を占う花巻地方の「たるし滝」の太さもさぞかしかと思われましたが、思ったよりも太くはならなかったようです。それでも結果は「良」とのことです。ホッとしました。

さて、東山地域の「松川中通中山間集落協定」と一関地域の「滝原ファーム」の取組は、農地維持の面、農家の収益増加の面でもとも参考になりました。

令和8年の農作物が好天に恵まれ、美味しく豊かに実ってくれることを願い、私もこれらの取組を参考に、気合を入れてメロンを育てています。本格的な春の訪れを感じ、体の中に温かさとともにやる気が出てきたこの頃は、農家の皆さん、今年も頑張りましょうね。

農地利用最適化推進委員 小山 範輝



編集後記



地域農業を支える 滝原ファームの新たな挑戦

株式会社滝原ファーム
代表取締役

佐藤 和也さん

株式会社滝原ファームは、平成20年12月に設立され、これまで地域の水稻生産の担い手として厳美地区の農業を支えてきました。近年は水稻に加え、高収益作物である一本ネギの栽培にも取り組んでいます。

一本ネギの栽培は3年前から開始しましたが、近年の夏場の厳しい暑さや強い日差しの影響により、昨年までは思うような成果が得られない年が続いていました。気温の高い日が続く時期は、炎天下での作業によって体力が消耗し、除草作業が追い付かないなど十分な管理が難しく、ネギの生育や出荷量にも影響が出ていました。

そこで昨年は、品種の選定や栽培方法、除草管理を一から見直し、外部指導者の助言を受けながら栽培改善に取り組みました。播種作業では培土の量を正確に計量し、苗の生育が均一になるよう工夫。また、雑草を抑えるため、ネギの生育段階に応じて管理機のローター部分を調整し、土のかけ具合を変えながら土寄せ作業ができる管理

機を新たに導入し、雑草を「生やさない管理」を徹底しました。

さらに、同じ厳美地区で活動する農事組合法人道の郷シンフォニー（代表理事組長・柿田堅）の協力を得て、作業や栽培技術の面で連携を図りました。地域内での支え合いが、栽培改善を後押ししています。

こうした取組の結果、収穫期には見事に揃った一本ネギが育ち、畑一面に広がるその様子はまさに圧巻。試行錯誤を重ねながら挑戦を続けたことが、着実な成果に繋がっています。

今後は耕作面積の拡大も視野に入れており、さらなる発展が期待されます。地域内での連携は、担い手不足や作業負担の軽減といった課題に対応する取組の一つとして、今後ますます重要になっていきます。

課題もある中で、一歩ずつ着実に歩みを進めるお二人の取組に、今後注目していきたい。

農業委員 阿部久美子



一面に広がるネギ畑と滝原ファーム佐藤さん（左）、道の郷シンフォニー柿田さん（右）

遠野市農業委員会 を視察

一関市農業委員会では、耕作放棄地の解消に向けた取組の参考とするため、遠野市農業委員会を視察しました。遠野市では平成22年に「耕作放棄地ゼロ宣言」を掲げ、農業委員会が中心となり遊休農



地の解消に継続的に取り組んでいます。

JR釜石線沿線の農地に菜の花を作付けし、農村景観の向上を図るとともに、収穫後は菜種油へ製品化するなど、農地の新たな活用にも挑戦しています。また、保育園児とともにヒマワリの栽培やサツマイモの苗植えから収穫、試食会までを行うなど、地域ぐるみで農地に親しむ取組も展開しており、農地を守りながら次世代へつなぐ実践は大変参考となりました。

本市においても、担い手不足や高齢化が進む中、農地パトロールの充実を図るとともに、有効活用策の検討を進め、耕作放棄地の解消と発生防止に取り組んでいます。

農作業安全

「これくらい...」
少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業

令和8年度 岩手県農作業安全スローガン

作業時の留意点

近年、農作業中の事故により多くの犠牲者が発生しており、県内では5年間で約40名もの尊い命が失われています。一関地方においても、令和7年に2件の農作業死亡事故が発生している状況です。農作業事故は、ほ場だけではなく、自宅の敷地内など、普段作業を行っている

身近な場所でも発生しています。屋外での農作業中だけでなく、過去には屋内で機械の整備中に下敷きになった事故や畜舎内で家畜に踏まれた事故も発生しています。このような農作業事故の発生を防止するために、慣れた作業であっても、安全確認を怠らず、注意して作業を行いましょう。

① 農業機械の点検・整備は、必ずエンジンを停止してから行いましょう。

② いざという時に、運転者以外でもエンジンを停止できるよう、日頃から農業機械の緊急停止ボタンやエンジンキーの位置を家族で共有しておきましょう。

③ 転落事故から体を守るため、トラクターには安全フレームをつけ、運転者はヘルメット、シートベルトを装着しましょう。

④ 強風・乾燥時には野焼きをしないようにしましょう。

⑤ なるべく一人での作業は避け、家族にはあらかじめ作業場所と帰宅時刻を知らせておきましょう。

⑥ 農作業に出かけるときは、携帯電話を持ち歩きましょう。

